

第1回「日本語大賞」

テーマ 「人と人をつなぐ日本語」

小学生の部 優秀賞 受賞作品

「それぞれの言葉、それぞれの考え方」

京都府

京都市立御所南小学校 6年

前野 里紗

それぞれの言葉、それぞれの考え方

京都市立御所南小学校 六年

前野 里紗

「あなたにとって人と人をつなぐ言葉とはどんな言葉ですか」と聞かれたら、わたしは一番に「あんたらしい」という祖母の言葉を思い浮かべるでしょう。

二、三年前のことです。祖母といっしょに絵をかいていた時、わたしは、どうしても納得のいく絵がかけませんでした。そしてとなりでかいていた祖母の絵と比べて落ち込んでいました。でもその時、「うまくかけたやん。あんたらしい絵やな」と笑顔で祖母に言われて、とてもうれしい気持ちになったことがありました。その時、人と比べて落ちこむのではなく、自分らしさが大切なのだということを、わたしは祖母の言葉から学びました。でもこの言葉は、「わたしにとって」の人と人をつなぐ言葉なのだと、友達と話をしていると思いました。つまり、「人によって、人と人をつなぐ言葉はちがう」と思ったのです。

例えば、友達は「がんばれ」「だいじょうぶ?」「ありがとう」というような言葉が、人と人をつなぐと感じていました。そこでわたしは、「なぜ、その言葉なのか」と考えてみました。それは、それぞれの考え方や感じ方、そして「人と人をつなぐ言葉」の捉え方が違うから、思い浮かぶ言葉も違ったのだと考えました。ただし、一つだけ、どの言葉にもある共通点があることに気付きました。

それは、「自分も人も、言っても言われてもうれしい」ということです。プラス思考になれる言葉を言われると、印象も良いし、人も自分も豊かになれます。「人」と「人」というより、「心」と「心」がつながると思います。

人によって感じ方は違います。十人いれば十通りの考えがあります。それは、祖母が教えてくれた「自分らしさ」ということにもつながると思います。一人一人の感じ方や考え方をきちんと理解し、しっかり受け止め、それぞれの考えを尊重していきたいと思います。